

**Oracle® Hardware Management Pack
2.3.x リリースノート**



Part No: E55567-03
2016 年 4 月

Part No: E55567-03

Copyright © 2014, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	11
ドキュメントとフィードバック	11
サポートとトレーニング	11
共著者	12
変更履歴	12
ソフトウェアリリースの情報	15
Oracle Hardware Management Pack と Oracle Solaris	15
Oracle Hardware Management Pack 2.3.x での更新	15
新機能	16
プラットフォームおよびコンポーネントのサポート	19
修正された問題	19
Oracle Hardware Management Pack 2.3.x のドキュメント	23
インストールの注意事項と問題	25
Oracle Solaris Automated Installer の使用時にホストと ILOM の相互接続機能が 無効状態になったままになることがある (18652144)	26
Oracle VM 3.2 および 3.3 の Oracle HMP インストールパッケージ (18131790)	26
Oracle HMP に必要な Oracle Solaris 10 パッチ (17582162)	27
Oracle HMP のインストール後に Oracle Solaris 11.1 システムのリブートが必 要になることがある (18231930)	27
パッケージリポジトリの無効なパブリッシャーが原因で Oracle Solaris システ ムでのインストールが失敗する (18262997)	27
Oracle HMP を Windows システムにインストールする前にホストと ILOM の 相互接続を無効にする (16521844)	28
ホストの相互接続を無効にするには	28
Oracle Solaris ゾーンでのインストール	28
Oracle Hardware Management Pack のアンインストールに install.bin - uninstall コマンドを使用できない (15777347)	29

Oracle Linux 6.1 システムでの Hardware Management Pack インストーラの GUI には libXtst.i686 が必須である (15766013)	29
Oracle Enterprise Linux 6 でインストーラの実行前に glibc.i686 をインス トールする (15715967)	30
Red Hat インストールの依存関係	30
インストールパスの問題	30
Hardware Management Pack のインストール時のソフトウェアが Windows ロゴ のテストに合格しなかったという警告メッセージ (15666328)	31
Windows Service Pack の更新が必要である	31
ILOM 3.0 および Windows Server 2003 R2	31
Solaris 11 で Oracle Hardware Management Pack のアンインストーラが hwmgmt.d および itpconfig コンポーネントを削除しない (20163489)	31
 ソフトウェアリリース 2.3.x の既知の問題と注意事項	33
Oracle Hardware Management Pack に共通する既知の問題	33
SPARC T3 システムで実行速度が遅いユーティリティがある (15705545)	34
リセット後のブート処理中にシステムがハングアップする (21962254)	34
Linux 5 および 6 で Oracle Hardware Management Pack の CLI ツールが失 敗する (22673965、22599886)	35
Linux システムで UEFI モードを使用しているときに、Oracle Hardware Management Pack のメモリーメッセージが表示されることがある (22667196、22144232)	36
biosconfig の既知の問題	36
Windows Server 2008 x64 SP2 のドライバ警告 (15636772)	36
fwupdate の既知の問題	36
fwupdate を使用して Sun Server X4-8 用のオンボード Ethernet コント ローラを更新できない (19790933)	37
Sun Server X4-4 以降のプラットフォームで fwupdate の自動的な電源の 再投入が機能しない (18866436)	38
ユーザーが、Solaris システムで Mellanox CX3 IB カードの更新を確認す るよう求められる (17656671)	39
リモート SP 更新でシステムの電源が再投入されない (18048467)	39
Emulex および Qlogic 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カードが取り付けられた Solaris 10 システムで fwupdate がハングする ことがある (18044689)	39
Solaris 10 1/13 システムでは 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) でファームウェア更新が失敗する (17551814)	40

デュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) に関する注意事項 (17503938)	40
Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには 電源の再投入が必要である (16562687)	40
Windows システムで Flash Accelerator F40 PCIe カードの fwupdate がサ ポートされていない (16278659)	41
Emulex ファイバチャネルカードが Oracle VM 3.1.1 で表示されない (15790684)	41
Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラー メッセージを無視してもかまわない (15762571)	41
Oracle Enterprise Linux 6.0 が動作する Sun Fire X4270 M3 サーバーで、 スロット 2 の Qlogic カードが表示されない (15763607、11177285)	42
Sun StorageTek 6Gb/s SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6- INT-Z) 用に構成された内蔵エクспанダのファームウェアの更新後は リブートが必要である (15657192)	42
fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (15663490)	42
Windows 2008 R2 および OEL 5.4 で fwupdate update コマンドを使用 して HDD のファームウェアを更新できない (15643212)	43
IPMI の初期化によってエラーメッセージが fwupdate.log ファイルに 出力される (15670576)	43
Linux OS のロード後すぐにネットワークコントローラに対して fwupdate コマンド実行すると、デバイスの詳細が表示されないか、失 敗することがある (21210340)	43
Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新時に fwupdate が失敗することがある (21446307)	44
4 つ以上の Intel ネットワークコントローラを一覧表示または更新し たときに、fwupdate が失敗したり、時間がかかったりすることがある (21920385)	44
ホストと ILOM の相互接続の問題	45
Oracle VM 3.0.3 ではホストと ILOM の相互接続はサポートされない (17256129)	45
hwmgmtcli の既知の問題	45
Sun Blade X6270 M2 サーバーで hwmgmtcli を実行するとシャーシ情報 に関するエラーメッセージが返されることがある (15801911)	46
Sun Blade X6270 M2 で間違ったシャーシデータが表示される (15732926)	46
hwmgmtd の既知の問題	46
Windows システムで hwmgmtd のメモリー使用量が徐々に増えていく (15752292)	47
Oracle Hardware Management Pack 2.2.1 または 2.2.2 が ESX 3.5 サーバー にインストールされると、hwmgmtd が起動しない (15738417)	47

Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 を使用する Linux および Oracle Solaris で hwmgmt サービスを起動できない (20200641)	47
Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 を使用する Oracle SPARC システムで hwmgmt サービスが保守モードになる (19890355)	48
InfiniBand カードプラグインから情報を取得するときに hwmgmt がクラッシュすることがある (22066585)	48
ilomconfig の既知の問題	48
Oracle HMP ilomconfig のアンインストール後の Solaris ilomconfig の新しいシェルの起動 (18277233)	49
Linux システムでローカルのホストと ILOM の相互接続を有効化したときの DHCP 検出 (17563392)	49
ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (15650623)	49
ilomconfig のホストのローカル資格キャッシュ機能が無効にされている (21563538)	50
ipmitool の既知の問題	51
SPARC T3-4 ホストに電源が入っているときに SP をブートすると、ipmitool エラーが発生することがある (15719015、15691003)	51
raidconfig の既知の問題	51
ユーザー警告: raidconfig でシステムブートディスクが使用可能と表示される (20992189)	52
Sun Flash Accelerator カードが誤って RAID 対応として識別される (18519959)	53
MegaRAID SAS コントローラを搭載した SPARC システムでホットスเปアが表示されない (16729481)	53
SLES 11 SP 1 システムで、ディスクが消失することがある (15845681)	53
SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないことがある (15782246)	53
3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (15747500)	54
RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスクの完了率が常に 0% を示す (15742034)	54
SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティーが表示されない (15666684)	54
LSI REM で --name オプションを使用して RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (15675209)	55
OS が VMWare ESX 3.5 Update 5 のときに、異なる RAID ボリュームのデバイス名が同じになる (15674922)	55
raidconfig を使用して RAID ボリュームを作成するときに、RAID 10 はサポートされないと表示される (22129034)	55

SNMP エージェントの既知の問題	56
Storage MIB の snmpwalk によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (15694465)	56
SNMP トラップの問題	57
Sun X6250 サーバモジュールが間違ったサービスプロセッサのバージョン番号を報告する	57
ブレードシャーシで共有コンポーネント上のセンサーの親 FRU 名が正しくない (15728111、15688172)	57
SPARC T3 シリーズサーバでディスクリット電流センサーが間違って分類される (15687547)	58
SunHwMonInventoryTable が間違った数の DIMM を示す (15566455)	58
SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しい	58
ホストエージェントが間違った通知を生成することがある (15675490)	58
Windows でのセンサーグループの Hardware Management Agent の SNMP ウォークに関する問題 (15604854)	59
sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示していない (15666684)	59
SPARC T3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (15668518)	59
Storage MIB がデュアルパスディスクを公開しない (15673745)	60
ストレージビューアの既知の問題	60
Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (15586295)	60
Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティが正しくない (15584958)	61
write_cache_enabled プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (15583722)	61
SPARC M5-32 サーバおよび M6-32 サーバでの Oracle Hardware Management Pack の使用	61
ilomconfig (16369886)	61
hwmgmtcli (16507559)	63
itpconfig (16508501、16507898)	63
hwmgmt (15824059、15824037)	64

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、製品情報、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメントの変更履歴を示します。

- [11 ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [11 ページの「サポートとトレーニング」](#)
- [12 ページの「共著者」](#)
- [12 ページの「変更履歴」](#)

ドキュメントとフィードバック

Oracle Hardware Management Pack の関連ドキュメントには次のようなものがあります。

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	https://docs.oracle.com
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/goto/ohmp/docs
Oracle ILOM	http://www.oracle.com/goto/ilom/docs

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート: <https://support.oracle.com>
- トレーニング: <http://education.oracle.com>

共著者

このドキュメントの共著者は、Cynthia Chin-Lee、Lisa Kuder、David Moss、Ralph Woodley、Michael Bechler です。

変更履歴

このドキュメントセットには次の変更が加えられています。

- 2014 年 5 月。初版。
- 2014 年 6 月。問題 18866436 を追加するために『リリースノート』を更新しました。『インストールガイド』および『*Management Agents* ユーザーズガイド』で Hardware Management Agent の概要の説明を更新しました。ホストと ILOM の相互接続の接続を確認する手順を追加するために『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。
- 2014 年 8 月。Oracle Solaris 11.2 統合に関する注釈を追加しました。編集上の改善を行うために『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。インストールの問題を記載するために『インストールガイド』を更新し、マイナーな技術的更新を行うために『*Management Agents* ユーザーズガイド』を更新しました。
- 2014 年 9 月/10 月。Oracle Linux Fault Management Architecture (FMA) ソフトウェアのサポートを追加するために『インストールガイド』および『リリースノート』を更新しました。
- 2014 年 11 月。NVMe コントローラのサポートと Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 の追加の更新を含めるために『CLI ユーザーズガイド』および『リリースノート』を更新しました。
- 2015 年 1 月。Oracle Hardware Management Pack 2.3.1.1 の更新 (問題の修正のみ、新機能なし) を含めるために『リリースノート』を更新しました。
- 2015 年 6 月。Oracle Hardware Management Pack 2.3.2.2 の更新を含めるために『リリースノート』を更新しました。ubiosconfig コマンドのエラーコード、および QLogic と Emulex のファイバチャネルコントローラファームウェアの更新に関する情報を追加するために『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。編集上の改善やその他のマイナーな技術的更新を行うために『インストールガイド』、『*Management Agents* ユーザーズガイド』、および『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。
- 2015 年 7 月。マイナーな編集上の変更を行うために『リリースノート』を更新しました。Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA ディスクイベントに関する情報を追加するために『*Management Agents* ユーザーズガイド』を更新しました。その他のマイナーな編集上の更新をライブラリに対して行いました。
- 2015 年 9 月。Oracle Hardware Management Pack 2.3.3 の更新を含めるために『リリースノート』を更新しました。EDAC の無効化に関する情報を追加するために『インストールガイド』および『Linux FMA ユーザーズガイド』を更新しまし

た。リモートサービスプロセッサのファームウェアの更新における手動の電源再投入の要件について説明するために『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。『*Management Agents* ユーザーズガイド』の `snmpwalk` と `set` の例を更新しました。その他のマイナーな編集上の更新をライブラリに対して行いました。

- 2015 年 11 月。Oracle Hardware Management Pack 2.3.4 の更新を含めるために『リリースノート』を更新しました。
- 2015 年 12 月。リリースごとの機能リリースおよびバグ修正に関する情報を追加するために『リリースノート』を更新しました。nvmeadm のエラーコードを追加するために『CLI ユーザーズガイド』を更新しました。Oracle ILOM でのローカルホストの資格キャッシュのサポートに関する注釈を追加するために、コマンドクイックリファレンスを更新しました。
- 2016 年 1 月。Oracle Hardware Management Pack 2.3.5 の更新を含めるために『リリースノート』を更新しました。Oracle Linux 7 を使用した Linux FMA のインストールについて説明するために『インストールガイド』を更新しました。
- 2016 年 2 月。バグ 22673965 および 22667196 について『リリースノート』を更新しました。バグ 22673965 について『インストールガイド』を更新しました。
- 2016 年 4 月。X6 シリーズシステムのサポートを示すために『リリースノート』を更新しました。

ソフトウェアリリースの情報

このセクションでは、次の情報について説明します。

- 15 ページの「Oracle Hardware Management Pack と Oracle Solaris」
- 15 ページの「Oracle Hardware Management Pack 2.3.x での更新」
- 23 ページの「Oracle Hardware Management Pack 2.3.x のドキュメント」

Oracle Hardware Management Pack と Oracle Solaris

このドキュメントは、Oracle Solaris 11.1 以前またはその他のサポートされるオペレーティングシステムが実行されているサーバーに適用されます。

Oracle Solaris 11.2 以降では、Oracle Hardware Management Pack はオペレーティングシステムに統合されたコンポーネントになります (Oracle Hardware Management Pack for Oracle Solaris と呼ばれます)。Oracle Solaris 11.2 (以上) のオペレーティングシステムに対して特に保証されていないほかのバージョンの Oracle Hardware Management Pack をダウンロードしたり使用したりしないでください。

Oracle Solaris 11.1 以前またはほかのオペレーティングシステムを使用している場合は、<https://support.oracle.com> から個別のダウンロードとして使用可能なスタンドアロンバージョンの Oracle Hardware Management Pack を引き続き使用してください。



Oracle Hardware Management Pack は、Oracle サーバーの管理に役立つコマンドとエージェントのセットです。

Oracle Hardware Management Pack 2.3.x での更新

このセクションでは、2.3.x リリースでの変更点について説明します。

- [16 ページの「新機能」](#)
- [19 ページの「プラットフォームおよびコンポーネントのサポート」](#)
- [19 ページの「修正された問題」](#)

新機能

2.3.x リリースの一部として次の新機能があります。

Release 2.3.5 の機能

- X6 シリーズプラットフォームおよびコンポーネントのサポートが追加されました。[19 ページの「プラットフォームおよびコンポーネントのサポート」](#)を参照してください。
- `raidconfig list` の出力に Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID HBA バックアップバッテリのステータスが追加された (21077324)

Release 2.3.3 の機能

次の機能が Oracle Hardware Management Pack 2.3.3 で追加または削除されました。

- ローカルホストの資格キャッシュを作成する `ilomconfig` 機能はサポートされなくなります。`ilomconfig` を使用して、以前に保存されたローカルホスト資格キャッシュを削除することはできます。追加の詳細は、[50 ページの「`ilomconfig` のホストのローカル資格キャッシュ機能が無効にされている \(21563538\)」](#)を参照してください。
- `fwupdate` コマンドでは、サポートされる Intel ベースの Ethernet ネットワークカード (アドインカードまたはオンボードコントローラ) のファームウェアの更新を、サポートされるバージョンの Microsoft Windows Server OS から行うことがサポートされるようになりました。

Release 2.3.2.2 の機能

次の新機能が Oracle Hardware Management Pack 2.3.2.2 で追加されました。

- `fwupdate` ツールは、Microsoft Windows または Oracle VM を実行しているシステム (すべてのバージョン) での Intel ベースの Ethernet ネットワークインタフェースカード (アドインカードまたはオンボードコントローラ) のファームウェアの更新をサポートしていません。

Microsoft Windows または Oracle VM を実行しているシステムで Intel ベースの Ethernet ネットワークインタフェースカードのファームウェアを更新するには、

使用しているシステムに含まれているオプションの Oracle System Assistant の管理ツールを使用します。それ以外の場合は、Oracle Hardware Management Pack または Oracle System Assistant がインストールされているサポートされているバージョンの Linux を実行している Oracle サーバーにネットワークアダプタカードを移動して、更新を実行できます。

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) からより多くのデータを収集するために、拡張された診断機能が追加されました。これには、Solaris 環境および Linux 環境の RAID のディスクに生成されるさまざまなディスクエラーおよび SMART イベントが含まれます。これらのイベントは RAID 内の疑わしいディスクを特定しやすくするのに役立ちます。詳細は、『[Oracle Server Management Agents ユーザーズガイド](#)』の「[Oracle Hardware Management Pack を使用したディスク診断イベントのモニター](#)」を参照してください。

Release 2.3.1 の機能

次は、Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 の新機能のリストです。

- NVMe コントローラを構成するために nvmeadm ツールが追加されました。詳細は、『[Oracle Server CLI ツール ユーザーズガイド](#)』の「[nvmeadm を使用した NVM Express デバイスの構成](#)」を参照してください。
- NVMe および NIC コントローラを更新するために新しいターゲットが fwupdate update コマンドに追加されました。詳細は、『[Oracle Server CLI ツール ユーザーズガイド](#)』の「[コンポーネントのファームウェアの更新](#)」を参照してください。
- Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID HBA が取り付けられているシステムでは、最初に RAID ボリュームを作成せずに、基礎になるオペレーティングシステムが直接ディスクにアクセスできるように、JBOD モードを有効にできます。詳細は、『[Oracle Server CLI ツール ユーザーズガイド](#)』の「[JBOD モードの有効化または無効化](#)」を参照してください。

注記 - JBOD モードのサポートも Oracle Hardware Management Pack 2.3.0 に含められましたが、最初の Oracle Hardware Management Pack 2.3.0 リリースの時点では使用可能なハードウェアがありません。

Release 2.3.0 の機能

次は、Oracle Hardware Management Pack 2.3.0 の新機能のリストです。

- X5 シリーズプラットフォームおよびコンポーネントのサポートが追加されました。[19 ページ](#)の「[プラットフォームおよびコンポーネントのサポート](#)」を参照してください。

- Oracle Linux 6.5 以降が実行されているサポート対象サーバーでは、Oracle Linux Fault Management Architecture (FMA) を使用できます。Oracle Linux FMA は、ホストベースのコマンド行インタフェースであり、Oracle ILOM Fault Management シェルから使用可能な障害管理コマンドのようなコマンドを使用して、ホストオペレーティングシステムから障害を表示して対応できます。

使用しているサーバーが Oracle Linux FMA を使用するようにサポートされているかどうかを確認するには、サーバーのドキュメントまたは <http://www.oracle.com/goto/ohmp> にある Oracle Hardware Management Pack サポート表を参照してください。

- ウォッチドッグエージェントが追加されました。これによって、Oracle ILOM またはホスト OS が Linux システムで応答しなくなった場合に、事前に設定されたアクションを実行できます。
 - Oracle HMP ウォッチドッグエージェントの詳細は、『*Oracle Hardware Management Agents ユーザーズガイド*』を参照してください。
 - Oracle HMP ウォッチドッグエージェントを構成できる `ilomconfig` ターゲットの詳細は、『*Oracle Server CLI ユーザーズガイド*』を参照してください。
- `hwmgmtd.conf` に `fast_updates_enabled` 機能を使用できます。これによって、より正確なディスクのモニタリングのために、ドライブの温度センサーのポーリング頻度を増やすことができます。
- Oracle VM が動作している SPARC サーバー上の Hardware Management Agent は、論理ドメインにインストールできます。これによって、プライマリドメインで Hardware Management Agent を使用して、論理ドメイン内で検出されたストレージデバイスをモニターできます。
- 最新の Oracle サーバーで検出された新しいセンサータイプを組み込むため、Oracle Hardware Management Pack の SNMP プラグインの一部である SUN-HW-MONITORING-MIB が拡張されました。
- ILOM-SYSTEM-MIB に基づいてイベントトラップを転送するため、`itpconfig` ツールが更新されました。Oracle ILOM Web インタフェースを使用して MIB (「ILOM Administration」>「Management Access」>「SNMP」) をダウンロードし、使用しているサーバーでこの MIB がサポートされることを確認できます。
- システムイベントログ (SEL) のモニタリングは、Hardware Agent (`hwmgmtd`) では無効になっています。SEL および障害ベースのトラップにアクセスするには、次のいずれかのツールを使用します。
 - `ipmievd` ユーティリティーを使用して、IPMI SEL イベントを Oracle ILOM から `syslog` に記録します。

`ipmievd` は、Oracle Hardware Management Pack の `ipmitool` パッケージの一部であるバイナリです。詳細は、`ipmievd.8` のマニュアルページを参照してください。
 - `itpconfig` (Oracle ILOM トラッププロキシ) を使用し、ホストと ILOM の相互接続機能を使用して Oracle ILOM からホストに SNMP トラップを直接転送します。SNMP トラップを送信するように Oracle ILOM を構成する方法については、Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。`itpconfig` の使用に関

する詳細は、『Oracle Server Management Agents ユーザーズガイド』を参照してください。

注記 - FRU (フィールド交換可能ユニット) の追加/削除トラップおよびストレージデバイストラップは、管理エージェント (hwmgmt) によって引き続き処理されます。これらのトラップを受信するには、管理エージェントをインストールして実行している必要があります。

プラットフォームおよびコンポーネントのサポート

Oracle Hardware Management Pack 2.3 のリリースごとの新しいプラットフォームおよびコンポーネントのサポートに関する詳細は、システム管理サポートマトリクスの Web ページを参照してください。新しいプラットフォームおよびコンポーネントは定期的に追加されます。それらが追加されると、リリース固有のサポートマトリクスのリンクが、そのリリースでサポートされるすべての製品およびコンポーネントのスーパーセットが含まれているメインページに追加されます。

すべてのバージョンのサポートマトリクスへのリンクは次の場所にあります。

<http://www.oracle.com/goto/ohmp>

修正された問題

次に、Oracle Hardware Management Pack 2.3.x リリースで修正された問題を示します。

Release 2.3.5 で修正された問題

- SP 相互接続の IP アドレスを変更したあとにコアファイルが生成される (22012637)
- システムからストレージシャーシを取り外したあとまたは再度取り付けたあとに hwmgmt エージェントがクラッシュすることがある (21903729)
- `fwupdate list controller` コマンドで Emulex コントローラが重複して表示される (22155186)
- `fwupdate(1m)` のマニュアルページの `-H` オプションの説明が正しくない (21889911)
- Linux を実行している Oracle の Sun Server X3-2L および X4-2L システムで、`fwupdate` ツールが LAN-on-Motherboard の情報を表示しない (22333747)

Release 2.3.4 で修正された問題

次の問題は Oracle Hardware Management Pack 2.3.4 で修正されました。

- Oracle Hardware Management Pack 2.3.3 を使用する一部のサーバープラットフォームで Oracle Hardware Management Pack の CLI コマンドが動作しない (22098019)。この問題は、Linux OS を UEFI ブートモードで実行しているサーバープラットフォームに限定されています。
- hmp-zoningcli のインストールが正しく動作しない (22145208)。

Release 2.3.3 で修正された問題

次の問題は Oracle Hardware Management Pack 2.3.3 で修正されました。

- リモート SP 更新でシステムの電源が再投入されない (18048467)。fwupdate コマンドを使用したネットワーク経由でのリモートシステムのサービスプロセッサのファームウェア更新で、自動リブートがサポートされるようになりました。x86 システムの場合は、--silent-reboot オプションもサポートされます。以前のバージョンでは、リモート SP を更新したあとに、電源を手動で再投入する必要がありました。
- リセット後のブート処理中にシステムがハングアップする (21962254)
- Oracle ILOM 3.1.x 以前のシステムで、hwmgmtcli の出力に特定のディスクエラーが表示されない (21482027)。hwmgmtcli ですでに捕捉されるエラー (ディスクの温度超過、自己テストの失敗、予測される障害など)に加えて、ディスク回復のエラー、不正なデバイスに関する障害、メディアエラー、デバイスエラー、およびトランスポートエラーが捕捉されるようになりました。
- 複製されたディスクイベントはイベントログで1つに統合されるべきである (21495102)
- 複数の Ethernet カードのネットワーク接続構成の場合、管理エージェントによって ILOM がハングアップすることがある (21439951)
- -H オプションを指定して fwupdate を実行したときに、ローカルの ILOM 資格情報を取得しようとする (21086520)
- リモート ILOM の更新: コマンドを起動したホストがリブートされる (18048467)
- sunStorageMIB のクエリー出力のコンポーネント名に予期しない「%s」文字がある (21657443)
- fwupdate がアラームクロックメッセージを表示して終了する (21330923)
- ilomconfig のホストプロファイルのリセットによって削除されない以前のホストプロファイルの更新がある (21207930)
- エラーメッセージ、およびコントローラのエラー時の動作を改善するために nvmeadm を変更する (21093595)
- ユーザー警告: raidconfig でシステムのブートディスクが使用可能と表示される (20992189)

- RAID ボリュームの作成時に、キャッシュモード NRWTC がデフォルトで構成される (20988172)
- RAID キャッシュの設定が `raidconfig` のマニュアルページで変更された (21098717)
- BIOS のアップグレードが失敗したときに、`ubiosconfig` が不正なエラーメッセージを報告する (21155720)
- HMP エージェントでメモリーリークが発生する (21151019)

Release 2.3.2.2 で修正された問題

次の問題は Oracle Hardware Management Pack 2.3.2.2 で修正されました。

- 子プロセスが強制終了されたときの `hwmgmt` の正しくないログメッセージを修正する (20905150)
- 一部のコマンドで出力される一部の `nvmeadm` メッセージが明確でない (20898666)
- `nvmeadm getlog` で使用可能なエラーログに正しい値が報告されない (20884169)
- `raidconfig` を使用してサブディスクを持つ RAID の構成をインポートするときに、コントローラで複数の RAID が変更されていた場合、最初の RAID の変更されたプロパティのみがインポートされる (16494064)
- SPARC システムの `fwupdate` に自動電源再投入のサポートを追加する必要がある (15775719)
- `hwmgmt` からベンダーツール `quacli` を使用すると、FC ストレージリンクがオフライン/オンラインになる (20950982)
- `nvmeadm` の online/offline オプション (Solaris 11.2 以降でのみサポートされます) が Linux/Windows で無効なサブコマンドとして識別されない (20916889)
- `nvmeadm` のオンラインデバイスの `format` および `import` のエラーメッセージにデバイス名を含めるべきである (20923927)
- Linux の HMP インストーラが Linux の FMA コンポーネントのサポートに関して rpm の依存関係のチェックを実行しない (20956762)
- `nvmeadm` の `import/export` サブコマンドの機能が適切に文書化されていない (20884222)
- `ilomconfig` で問題のない「Unable to get mutex」ログメッセージが報告される (20761474)
- HMP 2.3.1 が `/var/opt/sun-ssm/` ではなくルート (`/`) の下に `hwmgmt.log` を作成する (20269424)
- `fwupdate` が「ERROR: Platform not supported」というメッセージを表示して失敗する (19207713)
- 可能な場合はコントローラのシリアル番号を表示する (20515989)

Release 2.3.1.1 で修正された問題

次の問題は Oracle Hardware Management Pack 2.3.1.1 で修正されました。

- Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 を使用する Linux および Oracle Solaris で hwmgmtd サービスを起動できない (20200641、20266980)
- Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 を使用する Oracle SPARC システムで hwmgmtd サービスが保守モードになる (19890355)
- Oracle Solaris 11 で Oracle Hardware Management Pack のアンインストーラが hwmgmtd および itpconfig コンポーネントを削除しない (20163489)

Release 2.3.1 で修正された問題

次の問題は Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 で修正されました。

- fwupdate list all コマンドのエラーメッセージ (18707048)
- HMP インストーラによって捕捉されないパッケージの依存関係がある (19561983)
- Oracle Linux 7 で HMP が USB ベースの ILOM 相互接続を自動的に構成できない (19357806)
- hwmgmtmcli レポートに add_on_disks および add_on_disk_size プロパティが表示されない (19205811)
- Oracle Linux 7 で hwMonMib および storageMib のデータが提供されない (19603933)
- fwupdate がマルチパスの NVMe ディスクを正しく識別しない (19603409)

Release 2.3.0 で修正された問題

次の問題は Oracle Hardware Management Pack 2.3.0 で修正されました。

- コマンドを実行するには作業用ディレクトリが書き込み可能である必要がある (16538678)
- ゾーンを持つ Oracle Solaris 11 システムへの Oracle Hardware Management Pack のインストール (16970964)
- Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの FDOM が /STORAGE に表示されない (15645766)
- Oracle ILOM で使用可能な一部の SNMP トラップが Hardware Management Pack によって生成されない (15686011)
- sunHwMonFruStatus がコンポーネントの障害状態を反映しない (15687574)
- Windows システムで fwupdate コマンドを使用して Oracle ILOM を更新すると失敗する (17576286)
- 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) でファームウェアバージョンが表示されない (17037795)

- SPARC サーバーからディスクを取り外すと、raidconfig がハングアップする (15826569)
- 同じ種類の LSI ストレージコントローラを 17 台以上搭載したシステムでのセグメント例外 (16618057)
- hwmgmt d が Red Hat Linux 6.4 のシステムで正常に起動しない (16975947)
- fwupdate が StorageTek 8 Gb FC PCI-Express デュアルポート HBA (Emulex) の最初のポートのファームウェアのみをアップグレードする (15811623)
- ディレクトリが削除されたか、権限/所有権が原因で必要な hmptmp ディレクトリが使用できない場合、hwmgmt d が sunHwMonMIB を使用する Oracle ILOM に関連するストレージエラー/データを報告しない (18770002、18764373)

Oracle Hardware Management Pack 2.3.x のドキュメント

Hardware Management Pack の完全なドキュメントは、次の Web 上にあります。

<http://www.oracle.com/goto/ohmp/docs>

インストールの注意事項と問題

次の項目は、Oracle Hardware Management Pack のインストールに影響を及ぼします。

問題	回避方法
26 ページの「Oracle Solaris Automated Installer の使用時にホストと ILOM の相互接続機能が無効状態になったままになることがある (18652144)」	あり
26 ページの「Oracle VM 3.2 および 3.3 の Oracle HMP インストールパッケージ (18131790)」	なし
27 ページの「Oracle HMP に必要な Oracle Solaris 10 パッチ (17582162)」	なし
27 ページの「Oracle HMP のインストール後に Oracle Solaris 11.1 システムのリブートが必要になることがある (18231930)」	あり
27 ページの「パッケージリポジトリの無効なパブリッシャーが原因で Oracle Solaris システムでのインストールが失敗する (18262997)」	あり
28 ページの「Oracle HMP を Windows システムにインストールする前にホストと ILOM の相互接続を無効にする (16521844)」	なし
28 ページの「Oracle Solaris ゾーンでのインストール」	なし
29 ページの「Oracle Hardware Management Pack のアンインストールに <code>install.bin -uninstall</code> コマンドを使用できない (15777347)」	あり
29 ページの「Oracle Linux 6.1 システムでの Hardware Management Pack インストーラの GUI には <code>libxtst.i686</code> が必須である (15766013)」	あり
30 ページの「Oracle Enterprise Linux 6 でインストーラの実行前に <code>glibc.i686</code> をインストールする (15715967)」	なし
30 ページの「Red Hat インストールの依存関係」	あり
30 ページの「インストールパスの問題」	なし
31 ページの「Hardware Management Pack のインストール時のソフトウェアが Windows ログのテストに合格しなかったという警告メッセージ (15666328)」	なし
31 ページの「Windows Service Pack の更新が必要である」	なし
31 ページの「ILOM 3.0 および Windows Server 2003 R2」	なし
31 ページの「Solaris 11 で Oracle Hardware Management Pack のアンインストールが <code>hwmgmtd</code> および <code>itpconfig</code> コンポーネントを削除しない (20163489)」	あり

Oracle Solaris Automated Installer の使用時にホストと ILOM の相互接続機能が無効状態になったままになることがある (18652144)

Oracle Solaris Automated Installer (Oracle Solaris 11 で導入) を使用してサーバーにソフトウェアを配備すると、Automated Installer がインストール中にリブートを実行したあとで、サーバーのホストと ILOM の相互接続機能 (多数の Oracle Hardware Management Pack 機能に必須) が無効状態のままになることがあります。

サーバーが Automated Installer によって設定されたかどうかを判別するには、次のコマンドを入力します。

```
# netadm list | grep ncp

ncp          Automatic   online    <-- Automated Installer was used
ncp          DefaultFixed disabled
```

回避方法

これが発生した場合、インストールの完了後に 2 回目のサーバーのリブートを実行します。

Oracle VM 3.2 および 3.3 の Oracle HMP インストールパッケージ (18131790)

Oracle VM 3.3 以降のための Oracle Hardware Management Pack インストールパッケージを利用できるようになりました。

パッケージ名は `oracle-hmp-2.3.0.0-ovm3.3-x86_64.zip` です。このパッケージには、削除された `polycoreutils` や `polycoreutils-python` などの依存関係があります。

Oracle VM 3.2 以前では、`oracle-hmp-2.3.0.0-oe15-x86_64.zip` パッケージを使用します。

`oracle-hmp-2.3.0.0-oe15-x86_64.zip` パッケージを代わりに使用できるため、`oracle-hmp-2.3.0.0-ovm3-x86_64.zip` ファイルは Oracle Hardware Management Pack 2.3 から削除されました。

Oracle HMP に必要な Oracle Solaris 10 パッチ (17582162)

Oracle Solaris 10 システムで Oracle Hardware Management Pack を実行している場合、ストレージ情報へのアクセスの問題を回避するために、次のパッチをインストールします。

- SPARC システムの場合: 148421-02
- X86 システムの場合: 148422-02

Oracle HMP のインストール後に Oracle Solaris 11.1 システムのリブートが必要になることがある (18231930)

Oracle Solaris 11.1 システムへの Oracle Hardware Management Pack のインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
Host-to-ILOM Interconnect could not be enabled.
-----
.
ipadm: cannot create interface net2: Operation failed
ipadm: cannot create address: No such interface
ERROR: ILOM not reachable over internal LAN
.
Interface name is net2
net2 should be up
```

回避方法

ホストと ILOM の相互接続を有効にするには、システムをリブートします。

パッケージリポジトリの無効なパブリッシャーが原因で Oracle Solaris システムでのインストールが失敗する (18262997)

Oracle Solaris システム上の「pkg」システムに無効なパブリッシャーが構成されている場合、Oracle Hardware Management Pack のインストールで複数のエラーが発生し、どのツールも正しくインストールされません。エラーメッセージの例を次に示します。

```
Custom Action:      InstallSolaris11
                   Status: ERROR
                   Additional Notes: ERROR -      class
InstallSolaris11 NonfatalInstallException pkg: 1/2 catalogs successfully
updated:

Unable to contact valid package repository
Encountered the following error(s):
Unable to contact any configured publishers.
This is likely a network configuration problem.
```

```
file protocol error: code: 22 reason: The path '/mnt/repo' does not contain a
valid package repository.
Repository URL: 'file:///mnt/repo'. (happened 2 times)
```

回避方法

このエラーメッセージが発生した場合:

1. エラーメッセージに示されているリポジトリ URL に関連するパブリッシャーを削除します。
2. Oracle Hardware Management Pack をアンインストールします。
3. Oracle Hardware Management Pack を再インストールします。

Oracle HMP を Windows システムにインストールする前にホストと ILOM の相互接続を無効にする (16521844)

Oracle Hardware Management Pack を Windows システムにインストールする際、ホストから ILOM へのインストール前にホストと ILOM の相互接続を Oracle ILOM から無効にする必要があります、そうしないと、構成に失敗する可能性があります。

ホストの相互接続を無効にするには

1. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「ILOM Administration」 -> 「Connectivity」を選択します。
3. 「Local Host Interconnect」セクションで、「Configure」リンクを選択します。
4. 「Configure USB Ethernet Parameters」ダイアログで次を行います。
 - a. 「Host Managed」フィールドの「True」を選択します。
 - b. 「State」フィールドの「Enabled」を選択解除します。

注記 - 「State」が「Enabled」に設定されている場合は、「Host Managed」ボックスを選択解除し、「Enabled」ボックスを選択解除してから、「Host Manage」の「True」ボックスを選択します。

Oracle Solaris ゾーンでのインストール

Oracle Hardware Management Pack パッケージはすべての Oracle Solaris ゾーンにインストールされます。ただし、Oracle Solaris 10 および 11 の両方に含まれる Oracle

Hardware Management Pack ユーティリティーには、非大域ゾーンでの機能に制限があるか、その機能がまったくありません。

次の Oracle Hardware Management Pack ユーティリティーは、非大域ゾーンで機能しません。

- `biosconfig`
- `fwupdate`
- `raidconfig`
- `hwmgmtcli`
- `hwmgmt`
- Management Agent

これらのユーティリティーは、非大域ゾーンで LAN インタフェースが使用されている場合にのみ機能します。

- `ipmitool`
- `ilomconfig`
- `ubiosconfig`

Oracle Hardware Management Pack のアンインストールに `install.bin -uninstall` コマンドを使用できない (15777347)

`install.bin -uninstall` コマンドは、Hardware Management Pack のアンインストーラではなくインストーラを起動します。

回避方法

アンインストーラの起動には、次のコマンドを使用します。

- Oracle Solaris OS または Linux システムの場合: `/opt/sun-ssm/setup/uninstall`
- Windows システムの場合: `C:\Program Files\Oracle\Oracle Hardware Management Pack\setup\uninstall.exe`

Oracle Linux 6.1 システムでの Hardware Management Pack インストーラの GUI には `libXtst.i686` が必須である (15766013)

Oracle Linux 6.1 が動作しているシステムで Hardware Management Pack インストーラの GUI を使用する場合は、次のコマンドを実行して `libXtst.i686` をインストールする必要があります。

```
yum install libXtst.i686
```

回避方法

GUI モードの代わりにコンソールインストールモードを使用します。

Oracle Enterprise Linux 6 でインストーラの実行前に glibc.i686 をインストールする (15715967)

Oracle Enterprise Linux 6 が動作しているシステムに Hardware Management Pack 2.2.1、2.2.2、または 2.2.3 をインストールする前に、glibc.i686 をインストールする必要があります。

glibc.i686 をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
yum install glibc.i686
```

Red Hat インストールの依存関係

Red Hat Enterprise Linux での自動インストール中、Net-SNMP サービスは自動的に起動されません。Hardware Management Agent の実行前に、Net-SNMP サービスを再起動する必要があります。

回避方法

このサービスを再起動するには、次のコマンドを実行します。

```
service snmpd restart
```

インストールパスの問題

- どのオペレーティングシステムでも、Hardware Management Agent のインストールパスを変更する場合は、そのパスが 70 文字以内であり、空白を 1 つも含まず、? - _ ./ のどの文字も含んでいないことを確認する必要があります。
- サイレントインストール用の応答ファイルの作成時は、絶対パスを使用して応答ファイルを作成する必要があります (問題 6982588 に説明されています)。例:

```
./install.bin -i GUI -r /tmp/response.txt
```

Hardware Management Pack のインストール時のソフトウェアが Windows ロゴのテストに合格しなかったという警告メッセージ (15666328)

Windows システムへの LAN-Over-USB ドライバのインストール時に、ソフトウェアが Windows ロゴのテストに合格しなかったという警告メッセージが表示されます。これはソフトウェアの操作に影響しないため、インストールを続行しても差し支えありません。

Windows Service Pack の更新が必要である

Oracle Hardware Management Agent のインストールでのエラーを回避するには、Microsoft 提供のセキュリティ更新がターゲットサーバーに必要です。セキュリティ更新のダウンロードサイトは次のとおりです。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=766A6AF7-EC73-40FF-B072-9112BAB119C2>

ターゲットサーバーで、vcredist_x86.exe をダウンロードしてインストールします。

ILOM 3.0 および Windows Server 2003 R2

Hardware Management Agent を ILOM 3.0 で正しく動作させるためには、Microsoft ホットフィックス <http://support.microsoft.com/kb/982915> を Windows Server 2003 R2 にインストールする必要があります。

Solaris 11 で Oracle Hardware Management Pack のアンインストーラが hwmgmt および itpconfig コンポーネントを削除しない (20163489)

この問題は Oracle Hardware Management Pack 2.3.1.1 で修正されました。

Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 のアンインストーラプログラムは、Solaris OS 11.0 および 11.1 の環境で hwmgmt および itpconfig コンポーネントを削除しませ

ん。これらのパッケージをアンインストールするには、それらを手動で削除する必要があります。

次のコマンドを使用して、これらのパッケージを手動で削除します。

```
# pkg uninstall system/management/hmp/hmp-hwmgmt
```

```
# pkg uninstall system/management/hmp/hmp-tools
```

```
# pkg uninstall system/management/hmp/hmp-libs
```


ソフトウェアリリース 2.3.x の既知の問題と注意事項

このセクションでは、最新バージョンの Hardware Management Pack に関する既知の問題について説明します。適切な箇所には問題の参照番号が指定されています。Oracle サポートへの問い合わせには、これらの番号を使用してください。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [33 ページの「Oracle Hardware Management Pack に共通する既知の問題」](#)
- [36 ページの「biosconfig の既知の問題」](#)
- [36 ページの「fwupdate の既知の問題」](#)
- [45 ページの「ホストと ILOM の相互接続の問題」](#)
- [45 ページの「hwmgmtcli の既知の問題」](#)
- [46 ページの「hwmgmd の既知の問題」](#)
- [48 ページの「ilomconfig の既知の問題」](#)
- [51 ページの「ipmitool の既知の問題」](#)
- [51 ページの「raidconfig の既知の問題」](#)
- [56 ページの「SNMP エージェントの既知の問題」](#)
- [60 ページの「ストレージビューアの既知の問題」](#)
- [61 ページの「SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用」](#)

Oracle Hardware Management Pack に共通する既知の問題

次の表に示されている問題は、Hardware Management Pack のすべてのツールに関連しています。

問題	回避方法
34 ページの「SPARC T3 システムで実行速度が遅いユーティリティがある (15705545)」	あり
34 ページの「リセット後のブート処理中にシステムがハングアップする (21962254)」	あり

問題	回避方法
35 ページの「Linux 5 および 6 で Oracle Hardware Management Pack の CLI ツールが失敗する (22673965、22599886)」	あり
36 ページの「Linux システムで UEFI モードを使用しているときに、Oracle Hardware Management Pack のメモリーメッセージが表示されることがある (22667196、22144232)」	該当なし

SPARC T3 システムで実行速度が遅いユーティリティーがある (15705545)

SPARC T3 システムでの実行時に、hwmgmt ユーティリティーが正確な結果を表示しないことがあります。

Oracle Hardware Management Pack のほかのユーティリティーの中には (raidconfig や hwmgmtcli など)、SPARC T3 システムでの実行速度が非常に遅いものもあります。

これらの問題は、問題 6937169 に記載されている Oracle Solaris の問題が原因で発生します。

回避方法

1. 影響を受けているユーティリティーを無効にします。
2. 次のコマンドを実行します。

注記 - これらのコマンドを実行する前に、必ず mdb のドキュメントを注意してよくお読みください。

```
# mdb -kw
> ddi_aliases_present/W 0
```

3. そのユーティリティーを再度有効にします。

リセット後のブート処理中にシステムがハングアップする (21962254)

Oracle Hardware Management Pack 2.3.3 で修正されました。

Linux を実行している Oracle x86 システムで、リセット後の BIOS のブート処理中にシステムがハングアップすることがまれにあります。ブート中に BIOS エラーが表示されることもあります (「AF OO」など)。この問題は、Oracle Hardware Management Pack

の管理エージェント (hwmgmt) が実行されていて、Ethernet インタフェースがネットワーク接続のために構成されている場合に発生することがあります。

この問題は Exalytic 製品で構成された Oracle Server X5-4 で確認されています。

回避方法

この問題が発生した場合は、管理エージェント (hwmgmt) を無効にしてシステムをリブートします。

1. Linux ホストに管理者としてログインし、次のコマンドを入力して管理エージェントを停止して無効にします。

```
# /sbin/chkconfig hwmgmt off  
# /sbin/service hwmgmt stop
```

2. 次のコマンドを入力し、ipmitool を使用してサービスプロセッサをリセットします。

```
# ipmitool bmc reset cold
```

3. 次のコマンドを入力してシステムをリブートします。

```
# reboot
```

システムが正常にリブートします。

Linux 5 および 6 で Oracle Hardware Management Pack の CLI ツールが失敗する (22673965、22599886)

古いバージョンの Linux カーネルを使用する Linux 5 または 6 を実行しているシステムで、Oracle Hardware Management Pack のサーバー CLI ツールが失敗することがあります。この問題は、Oracle Hardware Management Pack のバージョン 2.3.3.0 から 2.3.5.0 で発生します。

たとえば、fwupdate -v などのコマンドを実行して fwupdate ツールのバージョンを取得するときに、コマンド出力にエラーが表示されてコマンドが失敗し、次のメッセージが syslog に出力されます。

```
fwupdate version 2.3.5.0 r19425  
Thu Feb  4 07:20:02 2016:(CLI) Fishwrap version 4.1.0  
Thu Feb  4 07:20:02 2016:(CLI) Host Profile update failed.
```

回避方法

この問題が発生した場合は、Linux カーネルをバージョン 2.6.32 以降に更新します。

Linux システムで UEFI モードを使用しているときに、Oracle Hardware Management Pack のメモリーメッセージが表示されることがある (22667196、22144232)

Linux システムで Oracle Hardware Management Pack ユーティリティを実行していて、エージェントが UEFI モードである場合、システムログに次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
Program fwupdate tried to access /dev/mem between f0000->101000.
```

このメッセージは、機能的な問題とはならないため、無視してかまいません。

biosconfig の既知の問題

次の表に示されている問題は、biosconfig ツールに関連しています。

問題	回避方法
36 ページの「Windows Server 2008 x64 SP2 のドライバ警告 (15636772)」	あり

Windows Server 2008 x64 SP2 のドライバ警告 (15636772)

Windows Server 2008 x64 SP2 で biosconfig を使用しているときに、発行元不明のドライバ警告が表示されることがあります。この警告は無視しても差し支えありません。

fwupdate の既知の問題

次の表に示されている問題は、fwupdate ツールに関連しています。

問題	回避方法
37 ページの「fwupdate を使用して Sun Server X4-8 用のオンボード Ethernet コントローラを更新できない (19790933)」	あり
38 ページの「Sun Server X4-4 以降のプラットフォームで fwupdate の自動的な電源の再投入が機能しない (18866436)」	なし

問題	回避方法
39 ページの「ユーザーが、Solaris システムで Mellanox CX3 IB カードの更新を確認するよう求められる (17656671)」	あり
39 ページの「リモート SP 更新でシステムの電源が再投入されない (18048467)」	あり
39 ページの「Emulex および Qlogic 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カードが取り付けられた Solaris 10 システムで fwupdate がハングすることがある (18044689)」	あり
40 ページの「Solaris 10 1/13 システムでは 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) でファームウェア更新が失敗する (17551814)」	なし
40 ページの「デュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) に関する注意事項 (17503938)」	なし
40 ページの「Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには電源の再投入が必要である (16562687)」	なし
41 ページの「Windows システムで Flash Accelerator F40 PCIe カードの fwupdate がサポートされていない (16278659)」	なし
41 ページの「Emulex ファイバチャネルカードが Oracle VM 3.1.1 で表示されない (15790684)」	なし
41 ページの「Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラーメッセージを無視してもかまわない (15762571)」	なし
42 ページの「Oracle Enterprise Linux 6.0 が動作する Sun Fire X4270 M3 サーバーで、スロット 2 の Qlogic カードが表示されない (15763607、11177285)」	あり
42 ページの「Sun StorageTek 6Gb/s SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) 用に構成された内蔵エクспанダのファームウェアの更新後はリブートが必要である (15657192)」	あり
42 ページの「fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (15663490)」	あり
43 ページの「Windows 2008 R2 および OEL 5.4 で fwupdate update コマンドを使用して HDD のファームウェアを更新できない (15643212)」	なし
43 ページの「IPMI の初期化によってエラーメッセージが fwupdate.log ファイルに出力される (15670576)」	なし
43 ページの「Linux OS のロード後すぐにネットワークコントローラに対して fwupdate コマンド実行すると、デバイスの詳細が表示されないか、失敗することがある (21210340)」	あり
44 ページの「Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新時に fwupdate が失敗することがある (21446307)」	あり
44 ページの「4 つ以上の Intel ネットワークコントローラを一覧表示または更新したときに、fwupdate が失敗したり、時間がかかったりすることがある (21920385)」	あり

fwupdate を使用して Sun Server X4-8 用のオンボード Ethernet コントローラを更新できない (19790933)

この問題は Oracle Hardware Management Pack 2.3.2.2 で修正されました (下記の注を参照)。

現在、Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 に追加された `fwupdate nic-controller-firmware` コマンドを使用して、Sun Server X4-8 オンボード Ethernet コントローラを更新できません。

ただし、インストールされている PCIe ネットワークインタフェースカード (NIC) 上の Ethernet コントローラは、このコマンドで更新できます。

回避方法

Sun Server X4-8 オンボード Ethernet コントローラを更新するには、別の方法 (Oracle System Assistant など) を使用してください。

注記 - Oracle Hardware Management Pack 2.3.2.2 を使用している場合は、`fwupdate` コマンドを使用して、Microsoft Windows システムまたは Oracle VM システムの Ethernet コントローラを更新できません。使用しているシステムがそれらのいずれかのオペレーティングシステムの場合は、Oracle System Assistant を使用して Ethernet コントローラを更新します。

Oracle Hardware Management Pack 2.3.3 以降を使用している場合は、サポートされている Linux オペレーティングシステムまたは Microsoft Windows オペレーティングシステムが稼働しているシステムで、`fwupdate` を使用して Ethernet コントローラを更新することもできます。

Sun Server X4-4 以降のプラットフォームで `fwupdate` の自動的な電源の再投入が機能しない (18866436)

この問題は *Oracle Hardware Management Pack 2.3.0.1* で修正されました。

Sun Server X4-4 以降の x86 サーバーを ILOM v3.2.10.0 以降のファームウェアとともに使用すると、電源の再投入がファームウェアメタデータで指定されているときに、`fwupdate` は自動的な電源の再投入を実行できません。

`fwupdate update` コマンドの実行後に、次のメッセージが表示され、ホストシステムの電源が切断されます。

A PowerCycle was attempted and is not currently supported on this platform. You will need to perform a manual power cycle. Reference your firmware documentation for more information.

ローカルでサーバーの電源ボタンを使用するか、リモートで Oracle ILOM 電源管理機能を使用して、システムの電源を手動で再投入する必要があります。

ユーザーが、Solaris システムで Mellanox CX3 IB カードの更新を確認するよう求められる (17656671)

fwupdate を使用して Solaris システムで Mellanox CX3 Infiniband カードを更新すると、更新が必要かどうかを確認するように再度求められます。

回避方法

ファームウェアの更新を続行するには、プロンプトが表示されたら **y** と入力します。

リモート SP 更新でシステムの電源が再投入されない (18048467)

この問題は *Oracle Hardware Management Pack 2.3.3* で修正されました。

fwupdate を使用してネットワーク経由でリモートシステムの Oracle ILOM サービスプロセッサを更新したあとに、更新されたシステムが自動的にリブートしません。

回避方法

Oracle ILOM SP のリモート更新の実行後は、更新を有効にするために、リモートシステムの電源を手動で再投入してください。ファームウェアの更新後は、サービスプロセッサをリセットするために電源の再投入が必要となります。

Emulex および Qlogic 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カードが取り付けられた Solaris 10 システムで fwupdate がハングすることがある (18044689)

Emulex および Qlogic 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カードの両方が取り付けられた Solaris 10 システムでは、fwupdate がハングすることがあります。

回避方法

1. システムの電源を切ります。
2. Emulex 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カードを取り外します。
3. システムをリブートします。
4. fwupdate を実行します。

Solaris 10 1/13 システムでは 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) でファームウェア更新が失敗する (17551814)

この問題は *Oracle Hardware Management Pack 2.3* で修正されました。

Solaris 10 1/3 システムでは、FCoE または NIC モードの 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) で fwupdate を使用したファームウェア更新が失敗します。

デュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カード (Emulex) に関する注意事項 (17503938)

次の状態の Emulex デュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE コントローラカードの場合:

- NIC モードまたは CNA モード。
- FCoE SFP トランシーバが接続されている場合。
- Linux Unbreakable カーネルモードでの実行中

次の動作は、自動および手動の両方の fwupdate モードに適用されます。

- 複数の Emulex デュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE カードが NIC モードでシステムに存在するときに、1 つのカードを更新するために fwupdate を実行した場合でも、このコマンドを使用してファームウェアを更新するとすべてのカードが更新されます。
- 更新に使用するファームウェアイメージを `firmware` ディレクトリに置きます。たとえば、ファームウェアイメージ `xyz` を更新に使用する場合、このファームウェアイメージを `/firmware/xyz` に置く必要があります。

ファームウェアディレクトリ内に複数のイメージが存在する場合、fwupdate は、ファームウェアディレクトリ内のイメージから最新バージョンを使用します。

Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには電源の再投入が必要である (16562687)

Sun Fire X4170 M2 サーバーで ILOM を 3.1.2.20 よりも以前のバージョンからバージョン 3.1.2.20 またはそれ以降にアップグレードするときは、サーバーの電源を再投入す

る必要があります。ファームウェアの更新後にサーバーの電源が自動的に再投入されるように設定されていない場合は、ホストの電源を切断し、数分後に再度電源を投入します。

Windows システムで Flash Accelerator F40 PCIe カードの fwupdate がサポートされていない (16278659)

Windows オペレーティングシステムが動作しているシステムに取り付けられた Flash Accelerator F40 PCIe カードの更新では、fwupdate が現在サポートされていません。

Emulex ファイバチャネルカードが Oracle VM 3.1.1 で表示されない (15790684)

Oracle VM 3.1.1 が動作しているシステムに Emulex ファイバチャネルカードが装着されているときに、fwupdate がそのカードを認識しません。

Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラーメッセージを無視してもかまわない (15762571)

Emulex ファイバチャネルカード用にファームウェアのアップグレードを行っているときは、次のエラーメッセージが表示されることがありますが、無視してかまいません。

```
Updating c3: lpfc 0000:b0:00.0: 0:1306 Link Up Event in loop back
>>>> mode x1 received Data: x1 x1 x20 x1
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:1309 Link Up Event npiv not supported in loop
>>>> topology
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TM0:x0
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TM0:x0
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TM0:x0
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TM0:x0
>>>> Success
```

Oracle Enterprise Linux 6.0 が動作する Sun Fire X4270 M3 サーバーで、スロット 2 の Qlogic カードが表示されない (15763607、11177285)

fwupdate は、Oracle Enterprise Linux 6.0 が動作している Sun Fire X4270 M3 サーバーのスロット 2 に装着されている Qlogic カードを表示できません。

回避方法

そのカードを別のスロットに移動します。

Sun StorageTek 6Gb/s SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) 用に構成された内蔵エクспанダのファームウェアの更新後はリブートが必要である (15657192)

Sun StorageTek 6Gb/s SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) が搭載された X4270 M2 サーバーで内蔵エクспанダのファームウェアを更新したあと、reset コマンドによってサーバーが不安定になり、ハングアップする可能性があります。

回避方法

この問題を解決するには、サーバーをリブートします。

fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (15663490)

Oracle Hardware Management Pack 2.2 で修正されました。

fwupdate を使用して Hitachi H101414SC 146 GB ディスクドライバ用のファームウェアのダウングレードを試みた場合、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されることがありますが、fwupdate はこのデバイスでのファームウェアのダウングレードをサポートしていません。

回避方法

現在のファームウェアバージョンを、更新するバージョンと比較します。現在のバージョンの方が新しい場合は、ファームウェアを更新しないでください。

Windows 2008 R2 および OEL 5.4 で fwupdate update コマンドを使用して HDD のファームウェアを更新できない (15643212)

Sun Fire X2270 M2 サーバーに次の HDD が取り付けられている場合、fwupdate update を使用して HDD のファームウェアを更新できません。

- Windows システムの場合: Seagate モデル ST35000NSSUN500G および Hitachi モデル HUA7210SASUN1.0T
- Linux システムの場合: Seagate モデル ST35000NSSUN500G

IPMI の初期化によってエラーメッセージが fwupdate.log ファイルに出力される (15670576)

Windows システムで fwupdate を実行すると、次のメッセージが表示されます。

```
fwupdate version 2.0.0
Wed Sep 22 15:23:26 2010:(CLI) Fishwrap version 4.0.1
Failed to initialize security (80010119)
```

このメッセージは無視してかまいません。

Linux OS のロード後すぐにネットワークコントローラに対して fwupdate コマンド実行すると、デバイスの詳細が表示されないか、失敗することがある (21210340)

Oracle Linux 7.x または Red Hat Enterprise Linux 7.x のシステムで、オペレーティングシステムが起動して使用可能になってから数分の間に、ネットワークインタフェースコントローラに対して fwupdate コマンドを実行しようとする、不完全な情報が表示されるか、コマンドが失敗することがあります。

fwupdate list を使用して情報を表示しようとしたときに、システムのネットワークコントローラのデバイス情報が出力に表示されないことがあります。fwupdate update を使用してネットワークコントローラのファームウェアを更新しようとしたときに、更新が失敗することがあります。

この問題が発生するのは、ネットワークインタフェースコントローラのみです。ほかのデバイスに対しては、OS が起動して使用可能になれば、すぐに fwupdate コマンドを正常に実行できます。

回避方法

OS の起動後に少なくとも 2 分間待ってから、fwupdate コマンドを使用してネットワークコントローラデバイスの情報を一覧表示したり、ネットワークコントローラファームウェアを更新したりしてください。

ネットワークコントローラファームウェアの更新などの重要なタスクの場合は、OS が起動したあと 2 分間待ってから fwupdate list コマンドを実行し、ネットワークコントローラデバイスの情報が一覧表示されることを確認します。fwupdate list コマンドが正常に完了して、更新するネットワークコントローラの詳細が表示された場合は、fwupdate update コマンドを安全に実行できます。

Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新時に fwupdate が失敗することがある (21446307)

fwupdate コマンドを使用した Oracle Quad 10Gb Ethernet アダプタのファームウェアの更新が失敗することがまれにあります。この問題は、Oracle System Assistant を使用してアダプタのファームウェアを更新しようとしたときにも発生することがあります。

回避方法

この問題が発生した場合は、fwupdate コマンドを使用してアダプタのファームウェアの更新を再試行します。障害が続く場合は、Oracle のサポートに連絡してください。

4 つ以上の Intel ネットワークコントローラを一覧表示または更新したときに、fwupdate が失敗したり、時間がかかったりすることがある (21920385)

システムに 4 つ以上の Intel ネットワークコントローラがインストールされている場合は、fwupdate list controller コマンドが失敗するか、それらに関する情報を正常に一覧表示するために最大で 20 分かかります。16 個を超える Intel ネットワークコントローラがインストールされている場合は、情報を一覧表示するためにかかる時間はさらに長くなります。この問題は、fwupdate コマンドを使用した Intel ネットワークコントローラのファームウェアの更新に影響することもあります。

回避方法

fwupdate を使用して Intel ネットワークコントローラを一覧表示または更新しようとして失敗した場合は、コマンドを再試行し、コマンドが正常に終了するようにより長

い時間を取ってください。ネットワークコントローラのファームウェアを更新しようとして失敗が続いている場合は、Oracle サポートに連絡してください。

ホストと ILOM の相互接続の問題

次の表に示されている問題は、ホストと ILOM の相互接続に関連しています。

問題	回避方法
45 ページの「Oracle VM 3.0.3 ではホストと ILOM の相互接続はサポートされない (17256129)」	あり

Oracle VM 3.0.3 ではホストと ILOM の相互接続はサポートされない (17256129)

Oracle VM 3.0.3 が動作しているシステムでは、ホストと ILOM の相互接続をインストールしたり有効にしたりしないでください。これは、必要な LAN over USB Ethernet ドライバが Oracle VM 3.0.3 にないためです。

回避方法

ホストと ILOM の機能が必要な場合は、Oracle VM 3.1.1 以降に更新してください。

hwmgmtcli の既知の問題

次の表に示されている問題は、hwmgmtcli に関連しています。

問題	回避方法
46 ページの「Sun Blade X6270 M2 サーバーで hwmgmtcli を実行するとシャーン情報に関するエラーメッセージが返されることがある (15801911)」	あり
46 ページの「Sun Blade X6270 M2 で間違ったシャーンデータが表示される (15732926)」	あり

Sun Blade X6270 M2 サーバーで hwmgmtcli を実行するとシャーシ情報に関するエラーメッセージが返されることがある (15801911)

Oracle Hardware Management Pack 2.2.4 で修正されました。

hwmgmtcli コマンドを実行すると、次のようなシャーシ情報に関するエラーが返されます。

```
Chassis Model: ERROR
Chassis Address: ERROR
```

回避方法

このエラーを回避するには、Oracle ILOM 3.1 にアップグレードします。

Sun Blade X6270 M2 で間違ったシャーシデータが表示される (15732926)

Oracle Hardware Management Pack 2.2 で修正されました。

Sun Blade X6270 M2 サーバーモジュールで hwmgmtcli コマンドを使用してシャーシ情報を表示すると、シャーシに関する一部の情報が欠けています。

回避方法

Oracle ILOM CMM を使用してシャーシ情報を表示します。

hwmgmtd の既知の問題

次の表に示されている問題は、hwmgmtd に関連しています。

問題	回避方法
47 ページの「Windows システムで hwmgmtd のメモリー使用量が徐々に増えていく (15752292)」	あり
47 ページの「Oracle Hardware Management Pack 2.2.1 または 2.2.2 が ESX 3.5 サーバーにインストールされると、hwmgmtd が起動しない (15738417)」	あり
47 ページの「Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 を使用する Linux および Oracle Solaris で hwmgmtd サービスを起動できない (20200641)」	なし
48 ページの「Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 を使用する Oracle SPARC システムで hwmgmtd サービスが保守モードになる (19890355)」	なし

問題	回避方法
48 ページの「InfiniBand カードプラグインから情報を取得するときに hwmgmtd がクラッシュすることがある (22066585)」	あり

Windows システムで hwmgmtd のメモリー使用量が徐々に増えていく (15752292)

hwmgmtd が Windows システムで動作しているときに、そのデーモンが使用するメモリーが徐々に増えていきます。

回避方法

Windows システムでは、メモリー使用量がフラッシュされるように、hwmgmtd が 24 時間ごとに自動的に再起動されます。hwmgmtd が再起動したことを示すメッセージがログに表示されます。

Oracle Hardware Management Pack 2.2.1 または 2.2.2 が ESX 3.5 サーバーにインストールされると、hwmgmtd が起動しない (15738417)

ESX 3.5 が動作しているシステムに Management Pack 2.2.1 または 2.2.2 をインストールしたあと、hwmgmtd が自動的に起動しません。

回避方法

hwmgmtd エージェントを手動で起動します。hwmgmtd を手動で実行する方法の詳細は、『Oracle Server Management Agents 2.2 ユーザーズガイド』を参照してください。

Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 を使用する Linux および Oracle Solaris で hwmgmtd サービスを起動できない (20200641)

この問題は *Oracle Hardware Management Pack 2.3.1.1* で修正されました。

Linux または Oracle Solaris を実行しているシステムで、Oracle Hardware Management Pack エージェント (hwmgmtd) が起動しないか、起動したあとすぐに停止して保守モードになることがまれにあります。サービスの無効化/有効化およびクリアコマンドでは問題は修正されません。

回避方法はありません。

Oracle Hardware Management Pack 2.3.1 を使用する Oracle SPARC システムで hwmgmt サービスが保守モードになる (19890355)

この問題は Oracle Hardware Management Pack 2.3.1.1 で修正されました。

Oracle SPARC システムで、IPMI サービスが要求を処理しているときに Oracle Hardware Management Pack エージェント (hwmgmt) を停止した場合、エージェントが保守モードになってコアダンプが出力されることがまれにあります。

回避方法はありません。

InfiniBand カードプラグインから情報を取得するときに hwmgmt がクラッシュすることがある (22066585)

Oracle Solaris 10 を実行しているシステムで、InfiniBand プラグイン (mlnx_ib.so) から情報を取得するときに、管理エージェント (hwmgmt) がクラッシュすることがあります。

回避方法

この問題が発生した場合は、InfiniBand プラグインファイルの名前を mlnx_ib.so.disable に変更します。InfiniBand プラグインファイルへのデフォルトのパスは次のとおりです。

```
/usr/lib/ssm/lib/plugins/framework/
```

ilomconfig の既知の問題

次の表に示されている問題は、ilomconfig ツールに関連しています。

問題	回避方法
49 ページの「Oracle HMP ilomconfig のアンインストール後の Solaris ilomconfig の新しいシェルの起動 (18277233)」	なし
49 ページの「Linux システムでローカルのホストと ILOM の相互接続を有効化したときの DHCP 検出 (17563392)」	なし

問題	回避方法
49 ページの「ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (15650623)」	あり
50 ページの「ilomconfig のホストのローカル資格キャッシュ機能が無効にされている (21563538)」	あり

Oracle HMP ilomconfig のアンインストール後の Solaris ilomconfig の新しいシェルの起動 (18277233)

Oracle Solaris 11.1 が動作しているシステムから Oracle Hardware Management Pack バージョンの ilomconfig をアンインストールしたあとで、Oracle Solaris バージョンの ilomconfig を再度使用するために新しいシェルを起動する必要があります。

Linux システムでローカルのホストと ILOM の相互接続を有効化したときの DHCP 検出 (17563392)

この問題は Oracle Hardware Management Pack 2.2.8 で修正されました。

ネットワークマネージャーが動作している Linux システムで ilomconfig enable interconnect を使用すると、システムの相互接続ポートで DHCP 検出が行われることがあります。

このアクションは無害ですが、DHCP 検出が完了するまで相互接続を使用するべきではありません。

ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (15650623)

バージョン 3.0.9 以前の Oracle ILOM には、ilomconfig コマンドが「Cannot connect to BMC」というエラーで失敗する原因となり得る制約があります。これらのエラーは、複数のプログラムが Oracle ILOM の IPMI インタフェースへのアクセスを試みる場合に発生することがあります。

このようなエラーが発生した場合、Oracle ILOM はこのエラーを修復する必要があります。この修復は、Oracle ILOM が提供するサービスに 1-2 分の混乱が生じることを意味している可能性があります。

回避方法

このエラーを回避するには、`ilomconfig` の使用前に Hardware Management Agent および Storage Monitoring Agent を無効にします。また、`ilomconfig` の実行時に、Oracle ILOM へのほかのすべての IPMI アクセス (`ipmitool` の使用など) を行わないようにします。

ilomconfig のホストのローカル資格キャッシュ機能が無効にされている (21563538)

Oracle Hardware Management Pack 2.3.3 以降では、ホストと ILOM の相互接続を介した Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) へのアクセスを容易にするために使用されるホスト資格キャッシュ機能が無効にされています。`ilomconfig create credential` コマンドでは、Oracle ILOM のユーザー名とパスワードの情報を格納するためにホストに資格キャッシュファイルが作成されなくなります。既存の資格キャッシュも、Oracle ILOM SP にアクセスする Oracle Hardware Management Pack コマンドで使用されません。

この変更は、Oracle ILOM 3.2.4 より前のバージョンのシステムでのみ、システムのローカル SP にアクセスする一部の Oracle Hardware Management Pack コマンド (`fwupdate`、`ilomconfig`、`ubiosconfig` など) が発行される動作に影響します。これらのシステムの場合、LAN インタフェース (ホストと ILOM の相互接続または Ethernet ネットワーク接続) を使用するには、SP にアクセスするコマンドに `-H` および `-U` オプションを使用して資格情報を手動で含める必要があります。資格情報を指定しない場合、これらのコマンドはデフォルトの低速なローカル KCS インタフェースを使用してローカルの Oracle ILOM SP にアクセスします。

Oracle ILOM バージョン 3.2.4 以降のシステムの場合は、ホストと ILOM の相互接続を介してローカルの SP にアクセスするコマンドを実行するときに、資格情報を含める必要はありません。ネットワーク接続を使用して SP にアクセスするコマンドを実行するときは、資格情報を手動で含める (`-H` および `-U` オプションを使用) 必要があります。

以前に保存されたホスト資格キャッシュを削除する機能は、`ilomconfig delete credential` コマンドを使用することによって引き続きサポートされます。

回避方法

ローカルの Oracle ILOM SP (3.2.4 より前のバージョン) にアクセスする Oracle Hardware Management Pack コマンドにより高速な LAN インタフェースを使用するには、コマンド行で必要なユーザー資格情報を手動で入力する必要があります。必要なパスワードは、`stdin` にパイプしてスクリプトで使用することもできます。

例:

- `ilomconfig list system-summary --remote-hostname=sp_ip --remote-username=username`

- `cat passwd.file | fwupdate list all --remote-hostname=sp_ip --remote-username=username`

ここで、`sp_ip` は Oracle ILOM SP の IP アドレス、`username` は root 権限を持つ Oracle ILOM のユーザーアカウント、および `passwd.file` はユーザーが作成した、Oracle ILOM ユーザーアカウントのパスワードが含まれているファイルです。

注記 - 上記の例では、ネットワークポートではなくローカルホストと ILOM の相互接続を使用して SP にアクセスするために、`ilomconfig list interconnect` コマンドを使用して IP アドレスを取得しています。

ipmitool の既知の問題

次の表に示されている問題は、ipmitool に関連しています。

問題	回避方法
51 ページの「SPARC T3-4 ホストに電源が入っているときに SP をブートすると、ipmitool エラーが発生することがある (15719015、15691003)」	あり

SPARC T3-4 ホストに電源が入っているときに SP をブートすると、ipmitool エラーが発生することがある (15719015、15691003)

SPARC T3-4 ホストの電源が入っているときに SP をブートすると、次のエラーが表示されることがあります。

```
SP communication failure....Please start IPMI
```

この状態では ipmitool は機能しません。

回避方法

このエラーが発生した場合は、ホストをリブートしてエラーをクリアします。

raidconfig の既知の問題

次の表に示されている問題は、raidconfig ツールに関連しています。

問題	回避方法
52 ページの「ユーザー警告: raidconfig でシステムブートディスクが使用可能と表示される (20992189)」	該当なし
53 ページの「Sun Flash Accelerator カードが誤って RAID 対応として識別される (18519959)」	なし
53 ページの「MegaRAID SAS コントローラを搭載した SPARC システムでホットスベアが表示されない (16729481)」	なし
53 ページの「SLES 11 SP 1 システムで、ディスクが消失することがある (15845681)」	あり
53 ページの「SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないことがある (15782246)」	あり
54 ページの「3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (15747500)」	なし
54 ページの「RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスクの完了率が常に 0% を示す (15742034)」	なし
54 ページの「SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティが表示されない (15666684)」	あり
55 ページの「LSI REM で --name オプションを使用して RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (15675209)」	なし
55 ページの「OS が VMWare ESX 3.5 Update 5 のときに、異なる RAID ボリュームのデバイス名が同じになる (15674922)」	なし
55 ページの「raidconfig を使用して RAID ボリュームを作成するときに、RAID 10 はサポートされないと表示される (22129034)」	あり

ユーザー警告: raidconfig でシステムブートディスクが使用可能と表示される (20992189)

raidconfig を使用すると、コントローラおよび接続されているディスクをスキャンして、RAID ボリューム内にすでにあるディスクまたは RAID ボリュームに含めることができるディスクを一覧表示できます。ただし、raidconfig は、使用可能なディスクにデータが存在するかどうか、またはディスクがブートディスクまたはアプリケーションの論理ディスクとして使用されているかどうかを判別できません。

raidconfig を使用してボリュームを作成する (既存のデータが上書きされます) 前に、オペレーティングシステムのツールを使用して、接続されているディスクのインベントリ、それらの列挙、および保持するデータが含まれているかどうかに関する情報を取得してください。

Sun Flash Accelerator カードが誤って RAID 対応として識別される (18519959)

Sun Flash Accelerator F40 (LSI Logic 0x050a) および Sun Flash Accelerator F80 PCIe (LSI Logic 0x0581) カードは RAID 構成に使用できませんが、raidconfig リストコマンドの出力で RAID 対応コントローラとして識別されます。

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードは非 RAID コントローラとして正しく識別され、raidconfig list の出力では非表示になります。

MegaRAID SAS コントローラを搭載した SPARC システムでホットスペアが表示されない (16729481)

ディスクを専用スペアとして RAID 1 ボリュームに追加した場合、ホットスペアディスクはコマンド raidconfig list disk では表示されなくなります。

これは、MegaRAID SAS コントローラを搭載した SPARC システムで発生します。

SLES 11 SP 1 システムで、ディスクが消失することがある (15845681)

SLES 11 SP 1 システムで、RAID ボリュームに使用されるか、ホットスペアとして使用されるディスクが raidconfig のリスト出力に表示されないことがあります。

回避方法

更新済みの mpt2sas ドライバをインストールします。

SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないことがある (15782246)

raidconfig を使用して作成した RAID ボリュームが、Oracle ILOM の /STORAGE ターゲットの下に表示されないことがあります。

回避方法

新しく作成したボリュームを表示するには、**raidconfig list all** コマンドを使用します。

3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (15747500)

SGX-SAS6-R-INT-Z HBA の場合、RAID 1 ボリュームの作成に使用できるディスクは 2 台までです。

RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスクの完了率が常に 0% を示す (15742034)

RAID ボリュームで init タスクが実行されているときに、その RAID ボリューム内のディスクに対して clear タスクが開始されます。init タスクが終了するまで、clear タスクの完了率が常にゼロを示しています。

回避方法は必要ありません。

SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティーが表示されない (15666684)

SGX-SAS6-R-INT-Z HBA または SGX-SAS6-R-REM-Z の使用時に作成された RAID ボリュームに Mounted プロパティーがありません。raidconfig はマウント済みのボリュームが削除されるのを防ぎません。

回避方法

1. raidconfig コマンドを使用して、RAID ボリュームのデバイス名を取得します。
2. mount コマンドの出力で、ステップ 1 で取得したデバイス名のインスタンスを調べます。
3. mount コマンドの出力にデバイス名が存在する場合、RAID ボリュームは現在マウントされているため、raidconfig を使用して削除しないようにします。
4. 最初に RAID ボリュームをアンマウントしてから、raidconfig を使用してそのボリュームを削除します。

LSI REM で --name オプションを使用して RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (15675209)

raidconfig を ---name オプションとともに使用して RAID 0/1 拡張モジュール (X4607A) に RAID ボリュームを作成したあと、その RAID ボリュームは正常に作成されているのに RAID ボリューム名が Null のままになっています。

OS が VMWare ESX 3.5 Update 5 のときに、異なる RAID ボリュームのデバイス名が同じになる (15674922)

VMWare ESX 3.5 Update 5 が動作しているサーバーの RAID 拡張モジュール (X4620A) に 2 つの RAID ボリュームを作成すると、それらの RAID ボリュームのデバイス名が同じになります。

raidconfig を使用して RAID ボリュームを作成するときに、RAID 10 はサポートされないと表示される (22129034)

Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA (内蔵または外付け) が取り付けられているシステムで、--level=10 オプションを指定した raidconfig を使用して RAID 10 ボリュームを作成しようとする、 「ERROR: RAID level not supported by controller」というメッセージが表示されます。

回避方法

Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA (内蔵または外付け) の FCODE バージョン 1.00.65 は RAID 10 をサポートしていません。RAID レベル 1e で使用される偶数 (4 以上) 番号または奇数 (3 以上) 番号のディスクはサポートされます。RAID レベル 10 の代わりに RAID レベル 1e を使用してください。

たとえば、システムの 4 つのディスクに RAID 1e ボリュームを作成するには、次のように入力します。

```
raidconfig create raid --level=1e -d c0d0,c0d1,c0d2,c0d3
```

この RAID ボリュームは、raidconfig では RAID 1e として表示されますが、HBA の構成ユーティリティー (sas2ircu) では RAID 10 として表示されます。

これは、FCODE バージョン 1.00.65 を使用する Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA では
予期された動作です。

SNMP エージェントの既知の問題

次の表に示されている問題は、SNMP エージェントに関連しています。

問題	回避方法
56 ページの「Storage MIB の snmpwalk によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (15694465)」	なし
57 ページの「SNMP トラップの問題」	あり
57 ページの「Sun X6250 サーバモジュールが間違ったサービスプロセッサのバージョン番号を報告する」	あり
57 ページの「ブレードシャーシで共有コンポーネント上のセンサーの親 FRU 名が正しくない (15728111、15688172)」	あり
58 ページの「SPARC T3 シリーズサーバでディスクリット電流センサーが間違っ て分類される (15687547)」	あり
58 ページの「SunHwMonInventoryTable が間違った数の DIMM を示す (15566455)」	あり
58 ページの「SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しく ない」	なし
58 ページの「ホストエージェントが間違った通知を生成することがある (15675490)」	あり
59 ページの「Windows でのセンサーグループの Hardware Management Agent の SNMP ウォークに関する問題 (15604854)」	あり
59 ページの「sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示して いない (15666684)」	なし
59 ページの「SPARC T3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (15668518)」	あり
60 ページの「Storage MIB がデュアルバスディスクを公開しない (15673745)」	あり

Storage MIB の snmpwalk によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (15694465)

SPARC システムで snmpwalk コマンドを Storage MIB とともに使用すると、ストレージ情報が表示されますが、出力の終わりにエラーメッセージまたはタイムアウトを受け取る可能性があります。

このエラーメッセージは無視しても差し支えありません。

SNMP トラップの問題

- 一部のプラットフォームで `sunHwTrapProductName` が空場合があります。
- サービスプロセッサが ILOM 2.0 を実行している場合、`sunHwTrapSystemIdentifier` が空です。
- `sunHwTrapAssocObjectId` が常に `SNMPv2-SMI::zeroDotZero` に設定されます。
- `sunHwTrapComponentName` が、ILOM で使用される名前ではなくコンポーネントの IPMI 名に設定されます。
- Sun Fire X4200 M2 サーバーで、Hardware Management Agent が、`sunHwTrapSlotOrConnectorOk` または `sunHwTrapSlotOrConnectorError` の代わりに `sunHwTrapComponentOk` または `sunHwTrapComponentError` を送信しますが、それらは ILOM によって送信されるものです。

回避方法

この情報には、ILOM または SNMP インタフェースからアクセスできます。

Sun X6250 サーバーモジュールが間違ったサービスプロセッサのバージョン番号を報告する

Sun X6250 サーバーモジュールで古いサービスプロセッサファームウェアを使用して Hardware Management Agent を実行すると、間違ったサービスプロセッサのバージョンが報告されます。

回避方法

最新のファームウェアにアップグレードすることをお勧めします。

ブレードシャーシで共有コンポーネント上のセンサーの親 FRU 名が正しくない (15728111、15688172)

ブレードシャーシの共有フィールド交換可能ユニット (FRU) 上のセンサーの `sunHwMon...SensorParentFruName` が間違っ /SYS に設定されています。

回避方法

ILOM を使用して、これらのセンサーの正しい親の名前を確認します。

SPARC T3 シリーズサーバーでディスクリート電流センサーが間違っって分類される (15687547)

SPARC T3 シリーズサーバーで、ディスクリート電流センサーが間違っって分類され、`sunHwMonDiscreteCurrentSensorTable` ではなく `sunHwMonDiscreateOtherSensorTable` に一覧表示されます。

回避方法

`sunHwMonDiscreateOtherSensorTable` を使用してディスクリート電流センサーを表示します。

SunHwMonInventoryTable が間違っった数の DIMM を示す (15566455)

一部のプラットフォームで、システムに存在しない DIMM が `sunHwMonInvetoryTable` に示されます。

回避方法

`FruDescr`、`FruPartNumber`、`FruSerialNumber`、および `FruManufacturer` オブジェクトを表示します。これらの値が入力されていれば、それらの DIMM はシステムに存在します。これらのオブジェクトが入力されていなければ、存在しない DIMM を示しているため、無視しても差し支えありません。

SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しくない

プラットフォームの制約のために、ホストに物理的に存在しないディスク用のセンサーが `sunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable` に含まれていることがあります。これらのセンサーの `ParentFruIndex` は -1 であり、センサーの最後に STATE-HIDDEN が付いています。これらのセンサーは無視しても差し支えありません。

ホストエージェントが間違っった通知を生成することがある (15675490)

最新リリースの ILOM で定義されたすべてのデバイスタイプがホストエージェントによって認識されるわけではないため、結果として、ホストエージェント

がデバイス固有の通知 (sunHwTrapSlotOrConnector など) ではなく、一般的な sunHwTrapComponent 通知を生成する場合があります。これは、スロットやコネクタではなくコンポーネントエラーが原因です。

回避方法

MIB からの NAC 名を使用して、通知の対象となる特定のデバイスを調べます。

Windows でのセンサーグループの Hardware Management Agent の SNMP ウォークに関する問題 (15604854)

Windows オペレーティングシステムで Hardware Management Agent を使用すると、センサーグループにディスクリットセンサーが含まれている場合に、そのグループの SNMP ウォークによって空の文字列が返されます。

回避方法

回避方法は、Sun-HW-Monitoring MIB 全体の SNMP ウォークを実行することです。

sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示していない (15666684)

sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントではなくデバイス名を報告します

SPARC T3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (15668518)

SPARC T3-2 サーバーの DiskOSDeviceName が OSDeviceName として 02000000:0 および 02000000:2 を報告します。ホスト OS 上にそのような名前はありません。

回避方法

マルチパスディスクの場合、raidconfig はフルパス名の代わりにデバイスの WWN のみを返します。format コマンドは、このデバイスのフルパス名に WWN が組み込まれたものを返します。デバイスを相互に関連付けるには、WWN を使用します。

例:

- これは `raidconfig` を使用して得られるデバイスに関する情報です。Device:
5000CCA00A49BC1C
- これは `format` コマンドを使用して得られるデバイスに関する情報です。Device:
c0t5000CCA00A49BC1Cd0

Storage MIB がデュアルパスディスクを公開しない (15673745)

`sunStorageDiskTable` には、1 台の物理ディスクが 2 台のコントローラにデュアルパス化されたときの単一ディスクインスタンスしか示されません。

回避方法

ILOM を使用して、ディスクに関する正しい情報を確認します。

ストレージビューアの既知の問題

次の表に示されている問題は、ストレージビューアに関連しています。

問題	回避方法
60 ページの「Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (15586295)」	なし
61 ページの「Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に <code>max_disks</code> プロパティが正しくない (15584958)」	なし
61 ページの「 <code>write_cache_enabled</code> プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (15583722)」	なし

Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (15586295)

Sun Storagetek PCI-E SAS RAID HBA (SGXPCIESAS-R-INT-Z) を搭載した、RAID 1 (ミラー化) RAID 用のグローバルホットスペアが構成されている Oracle Solaris システムで Storage Management Agent を使用しているときに、ディスクの詳細が専用ホットスペアとして表示されます。

Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティが正しくない (15584958)

Sun Storagetek PCI-E SAS RAID HBA (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の max_disks プロパティがストレージビューアに間違っ 0 として表示されます。

write_cache_enabled プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (15583722)

write_cache_enabled プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できません。

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用

次の各セクションには、SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーで Oracle Hardware Management ツールを使用するための特定の情報が記載されています。

- [61 ページの「ilomconfig \(16369886\)」](#)
- [63 ページの「hwmgmtcli \(16507559\)」](#)
- [63 ページの「itpconfig \(16508501、16507898\)」](#)
- [64 ページの「hwmgmtd \(15824059、15824037\)」](#)

ilomconfig (16369886)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーのシャーシには、1 組のデュアル冗長 SP (SP0 および SP1) が格納されています。さらに 4 台の SP プロキシ (SPP0、SPP1、SPP2、SPP3) も搭載されています。

ホスト OS は SP からすべての Oracle ILOM プロパティに直接アクセスできるわけではないため、ilomconfig ではなく Oracle ILOM を使用して SP から Oracle ILOM プロパティにアクセスする必要があります。

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでは、Oracle Solaris ホスト OS は SPP で動作します。ilomconfig は、Oracle Solaris ホスト OS から Oracle ILOM SPP にアクセスします。

次の表で、SP と SPP のプロパティを説明します。

サービスプロセッサの種類	説明	SP にアクセスするためのツール
SP0、SP1 (冗長サービスプロセッサ)	これらは、標準の Oracle ILOM プロパティをすべて備えた主要なサービスプロセッサです。SP は SPP を管理します。	Oracle ILOM
SPP0、SPP1、SPP2、SPP3 (サービスプロセッサプロキシ)	各 SPP はドメイン構成可能ユニット (DCU) をモニターします。ホスト OS は SPP で動作します。	ilomconfig

SPARC サーバー M5-32 および M6-32 の SPP から使用できない Oracle ILOM プロパティ

次の表に、SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーの SPP から使用できない Oracle ILOM プロパティを示します。

Oracle ILOM のプロパティ	ilomconfig の機能
/SP/config	エクスポート、インポート
/SP/users	ユーザー
/SP/services/snmp/communities	SNMP コミュニティ
/SP/network/pending	ネットワーク管理 (読み取り専用)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーのプラットフォームでサポートされている ilomconfig コマンド

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでは、次の ilomconfig サブコマンドおよびターゲットがサポートされています。

- list サブコマンドのターゲット:
 - system-summary
 - network
 - network-ipv6
 - interconnect

- identification
- enable サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
- disable サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
- modify サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
 - identification
- create サブコマンドのターゲット:
 - credential
- delete サブコマンドのターゲット:
 - credential

hwmgmtcli (16507559)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーなどのマルチドメインシステム用に新しいサブシステムが追加されました。

dcu - DCU サブシステムの詳細を表示します。

SPARC M5-32 システムおよび M6-32 システムの場合、Oracle ILOM によって診断された open_problems は、PDOM ホストで hwmgmtcli によって報告されません。また、health および health_details の情報が表示されないか、信頼できない可能性があります。

マルチドメインシステムでは、hwmgmtcli は hwmgmtcli が実行されているホストドメイン専用のデバイス (コントローラ、ストレージなど) のみを表示できます。それに対して、Oracle ILOM はすべてのドメインからのレポートを取得するため、システム内のすべてのデバイスについて報告できます。

itpconfig (16508501、16507898)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでは、障害のあるプロキシを使用可能にすることはできません。これらのサーバーの SPP は Oracle ILOM のアラート管理を備えておらず、SP と OS 間のホストと ILOM の相互接続も存在しないため、このツールを機能させる方法がありません。

hwmgmt (15824059、15824037)

SPARC M5-32 サーバーおよび M6-32 サーバーでは、hwmgmt を使用してストレージ情報を Oracle ILOM に提供できますが、hwmgmt の SNMP エージェント機能は誤りのあるデータを提供するため、使用しないでください。